

あの日から2年…

犠牲者を悼み、復興を誓う

平成28年熊本地震益城町追悼式

あの熊本地震の発生から2年が経過した4月15日、「平成28年熊本地震益城町追悼式」が町文化会館において執り行われました。

会場には、遺族をはじめ町内の団体や町民など約260人が参列し、地震で犠牲となられた43人（震災関連死23人を含む）の御霊に哀悼の意を表しました。

西村町長は式辞で、「あまりにも突然に大切なご家族を亡くされたご遺族の皆様、今なお絶えることのない深い悲しみに想いをいたすとき、哀惜の念に堪えません。私は、今年の言葉として『心』

という言葉を選びました。それは、町民の皆様と心をついにし、元の町を取り戻すことはもちろんのこと、傷ついた被災者の皆様の心、特に子どもたちの心に寄り添い、一日でも早く笑いあえる姿を取り

戻すことが大事であると考えたからです。私はこれからも町民の皆様へ寄り添うことで『心の復興』を図り、宝物である『なんでもない毎日』をいち早く取り戻す努力を続けることを、ここに固くお誓い申し上げます」と述べ、早期復興を誓いました。

また、ご遺族を代表して、奥様を地震発生から30日目に亡くされた久保征明さん（下町）が、「妻は不自由な身体でありながら、周りを気遣う優しい女性でした。まだ、一緒に老後を過ごしたいと思っていました。無念でした。尊い家族の命を奪った地震を恨めしく思うのは私ばかりでなく、ここに参列されたご遺族も同じだと思います。しかし、天災と受け止め、前を向いて歩きださねばなりません。今回の震災を教訓に、さらに人の命

を大切に、災害に強い町にと願うことが、地震で無念にも命を落とされた方々の思いを生かすことになると思います」と追悼の言葉を述べました。

終わりに、来場者一人一人が祭壇に向け献花を行い、静かに式を閉じました。



▲参列者一同による黙とう

▲参列者一人一人が献花しました

▲追悼の言葉を述べる久保さん

▲式辞を述べる西村町長